

『FLANKER』新聞で紹介

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

(15) 15版 平成4年(1992年)4月23日 木曜日 不申 戸 寮新 月星



『FLANKER』

パソコン通信を駆使 就労事情調査など掲載

パソコン通信を駆使して、就労事情調査など掲載。ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。



パソコンを使って職業作業をする様子さん—西宮市の自宅

障害者グループ 機関誌を手作り

パソコン通信を駆使して、就労事情調査など掲載。ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

講習会や機関誌



講習会や機関誌の発行について、ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

障害者雇用拡大へ一石

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。



ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

ブロップ・ステーションの活動の様子が各紙で紹介されました。

平成4年(1992年)5月11日 月曜日

パソコン通信や情報端末を使い、体のハンディを克服する「コンピュータリハビリ」が盛況である。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。

働く場拡大へ市民団体が活動



「コンピュータリハビリ」は、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。

生きる 福祉のいま

「生きる 福祉のいま」は、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。



「コンピュータリハビリ」は、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。

効率が阻む障害者雇用

ハイテク技術で促進

「ハイテク技術で促進」は、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。コンピュータリハビリは、障害者や高齢者の生活の質を向上させるために開発された。



視力障害者の岡山英昭さん(右端)やけい輔(左端)らによる「フランカー」の練習会。中央が代表の竹中ナミさん

お仕事する 竹中さんえ図



日経産業新聞 1992年(平成4年)5月8日(金曜日)

障害者の就職に意欲

「在宅勤務」希望、56%に

「在宅勤務」希望、56%に

「在宅勤務」希望、56%に

自分が載せる新聞記事に てるお言葉図

